

II

めざす 地域福祉の姿

1 めざす地域福祉の姿	12ページ
2 地域福祉を推進するために	17ページ

長崎市がめざす地域福祉の姿

誰もが住み慣れた地域で、安心していきいきと暮らせるまち

地域福祉を推進する上で前提となる「地域福祉の3つの視点」と、めざす地域福祉の姿を実現するための「計画の2つの柱」は次のとおりです。

地域福祉の3つの視点

- 1 地域の個性を生かす視点
- 2 地域住民が主体的に参加する視点
- 3 地域住民が互いを認め合い、尊重し合う視点（権利擁護）

計画の2つの柱

※ ■ は、地域福祉の課題(10ページ)との関係性を示しています。

柱1 支え合いの力が強くなる 地域のしくみづくり

(1) 顔の見える関係が生まれる 地域の土壌づくり

地域に住む一人ひとりが、地域の一員であるという意識を持ち、日常的なあいさつや声かけを通して顔の見える関係を築き、福祉への理解・意識を高め、地域での「支え合い」が自然・自発的に生まれるような地域の風土、雰囲気づくりに取り組みます。

①顔の見える関係づくり ②意識づくり（マナーを含む）

(2) 支え合いが育ちやすい 地域の環境づくり

支え合いが生まれた後、その取り組みが継続・発展していけるよう、支え合いが育ちやすい地域の環境づくりに取り組みます。

③人材育成（担い手） ④交流・居場所づくり ⑦情報提供の充実
⑧相談窓口・相談支援の充実 ⑩行政サービスの充実

(3) みんなで支え合う 地域のしくみづくり

地域住民や関係団体、市社協、市が一体となった、みんなで支え合う地域のしくみづくりに取り組みます。

⑤団体・組織間の連携強化 ⑥見守り・支援のしくみづくり

柱2 一人ひとりに合った生活しやすい 環境づくり

サービスを必要な人が、より適切かつ速やかに必要なサービスを利用することができるように、相談機能や支援体制、情報提供の充実を図ります。

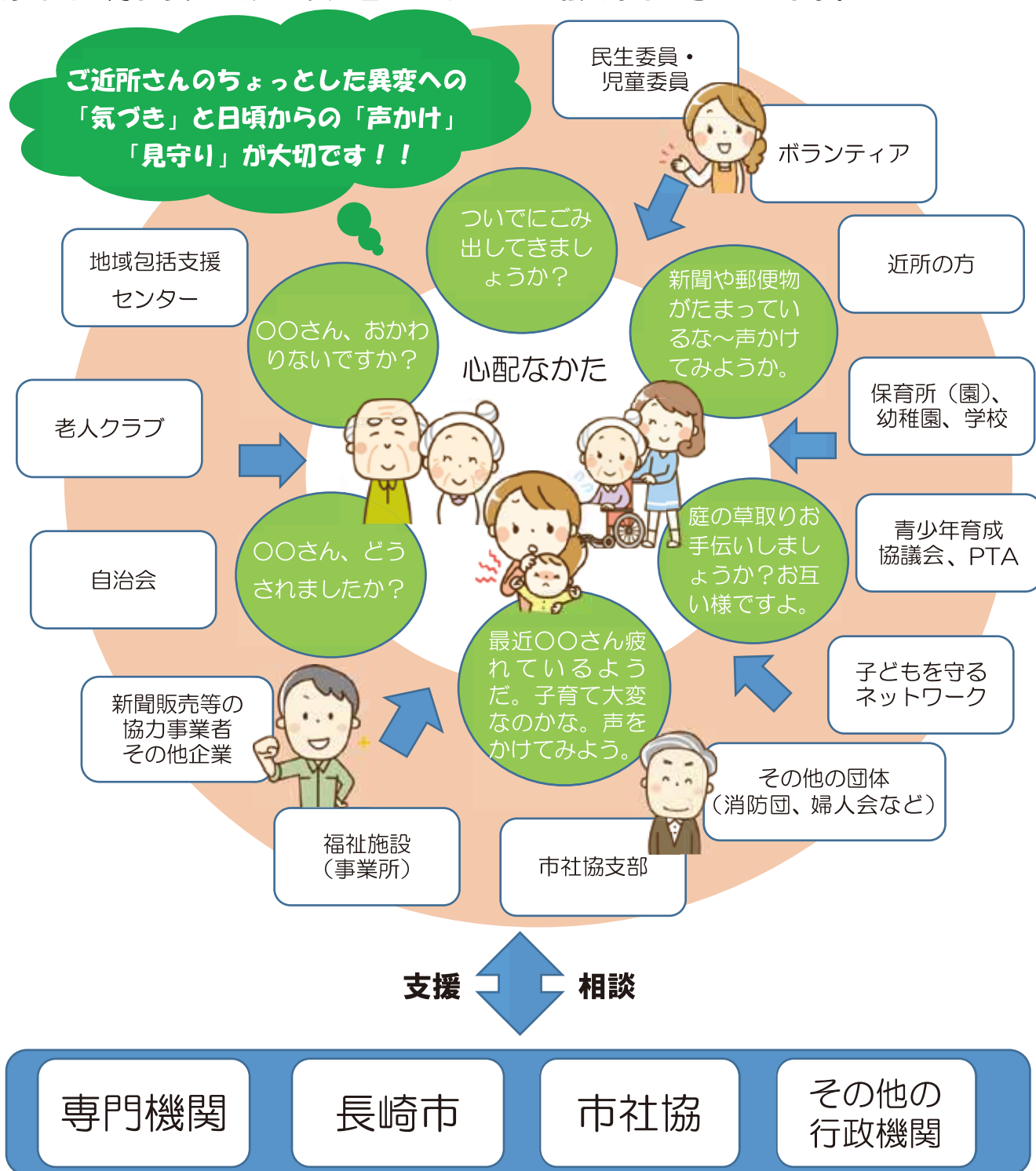
また、障害の有無や、年齢などに関わらずに、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、生活環境づくりに取り組みます。

⑧相談窓口・相談支援の充実 ⑨環境整備の充実 ⑩行政サービスの充実

《地域で支え合うしくみのイメージ》

高齢者や障害者、子育て世帯などの支援を必要とする人が、孤立してしまうことがないよう、地域住民がお互いに見守り、支え合える地域。

また、地域の中の住民や団体が連携・協力しつながり合うことで、地域の様々な課題を解決する力が高まり、地域での支え合いの力ももっと強くなると考えています。

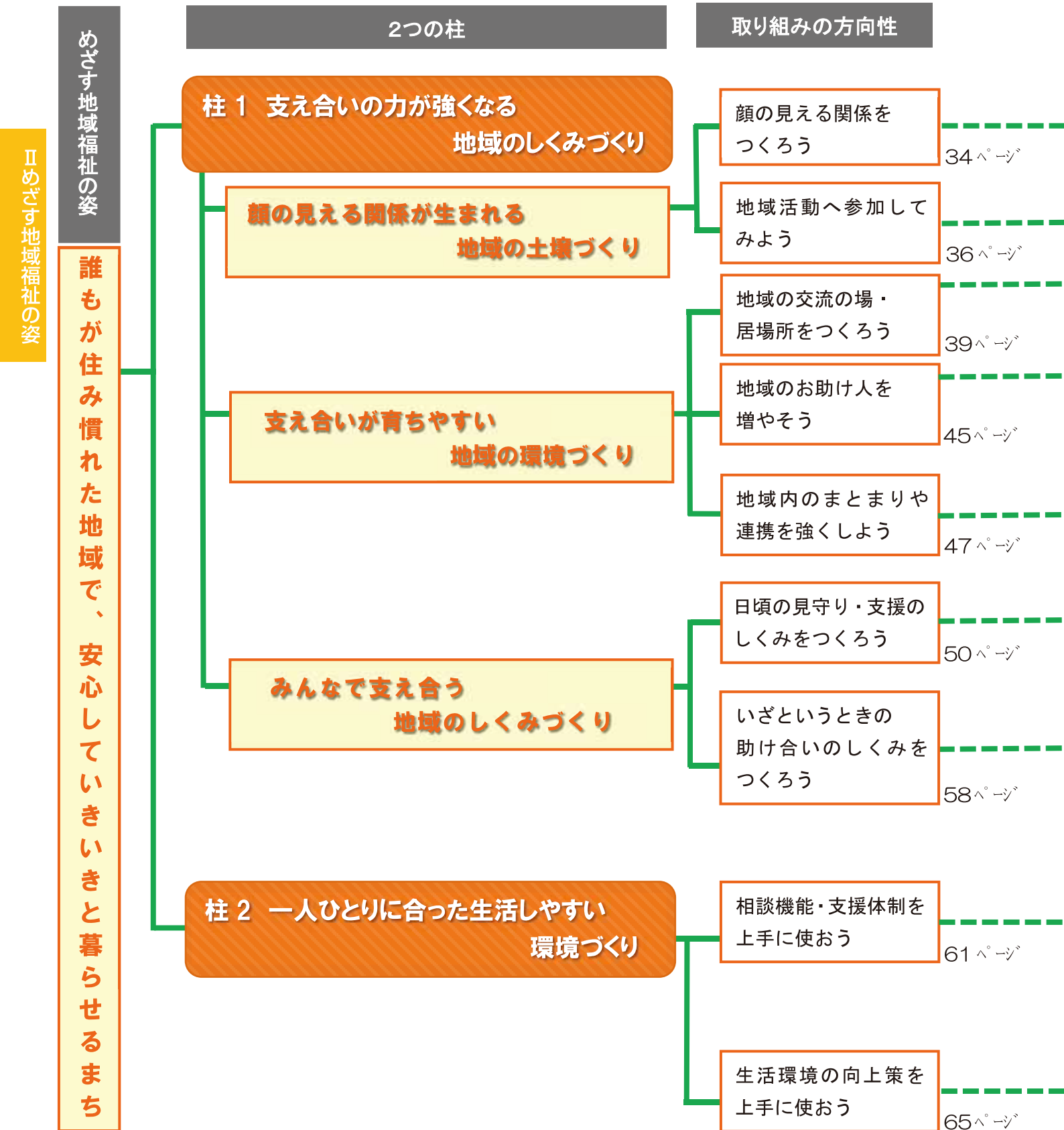


II めざす地域福祉の姿

※主な地域の身近な相談窓口一覧は 64 ページに掲載

■ 地域には、上記の図のように、自治会や老人クラブ、青少年育成協議会などの様々な団体が活動しています。地域住民や団体同士の信頼感を持った、つながりや集まりを「地域コミュニティ」と呼んでいます。

計画の体系図



【地域福祉の3つの視点】

- 1 地域の個性を生かす視点
- 2 地域住民が主体的に参加する視点
- 3 地域住民が互いを認め合い、尊重し合う視点（権利擁護）

地域・市・市社協が取り組むこと

[個人・家族でできること][地域でできること]	[市・市社協の支援策]
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつが自然にできる地域づくりに取り組む ・思いやる心、支え合う心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域での福祉教育の推進 ・マナー向上の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・できるときに楽しみながら参加する ・取り組んでいる活動を周知する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への参加促進 ・地域団体への参加促進 ・ボランティア、NPO等の活動への参加促進
<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に立ち寄り交流ができる場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の交流の場・居場所づくりの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成と協力体制をつくる ・育成した人材や特技を持った人が活躍できる場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を担う人材の発掘・育成 ・育成した人材や特技を持った人が活躍できる場の創出
<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動する団体が集まる場をつくり、情報入手や気軽に相談できる体制をつくる ・地域で活動する団体同士の連携を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体・組織間のつながり・情報交換の場の創出 ・アドバイザー派遣の推進 ・地域活動や市民活動への助成の充実 ・地域活動に関する情報提供・相談業務の充実 ・市職員の積極的な地域進出の促進 ・市役所内の連携及び関係機関との連携の強化
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からのご近所づきあいの中で見守る ・地域における見守りのしくみをつくり、安心して暮らせるまちづくりをめざす 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障害者・子どもに対する見守り・支援の推進 ・学校・地域ぐるみの防犯対策の強化 ・事業者等との見守りにかかる連携の強化
<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの防災意識を高める ・災害時に備えて日頃から自主的な防災活動をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の啓発及び防災に関する情報などの周知 ・地域における防災体制づくりの推進 ・緊急時に対応する人材の確保 ・地域の避難行動要支援者体制の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとのある人に気付いたら、民生委員・児童委員や地域包括支援センター等身近な人や相談窓口知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の充実 ・生活困窮者への支援体制の充実 ・訪問による支援の充実 ・各種情報媒体を活用した情報提供の充実 ・情報バリアフリー化の推進 ・権利擁護に向けた取り組みの推進 ・貸付金にかかる取り組みの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・行政サービスを利用する ・外出しやすい環境をつくり、社会参加を促進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーのまちづくりの推進 ・社会参加を促進するための移動手段的確保

■ 33～65 ページ「Ⅲ具体的に取り組むにあたって」の各項目に個人や家族、地域でできることについて「取り組みのアイデア」として掲載していますので参考にしてください。

地域の範囲とその特性

地域の範囲には特性があり、活動内容に適した範囲があります。主な地域の範囲とその特性は次のとおりです。

となり近所（10世帯程度の身近な集まり）

日ごろのあいさつや、ちょっとした関わりを通じて、顔の見える関係が一番築きやすく、となり近所の異変に気づくことができるのがこの範囲です。

また、いざ災害が発生したときに助け合いができる範囲でもあります。

自治会

となり近所の単位が集まり、「地域の課題」を、「地域で解決」し、「住みよいまち」を築いていくために活動しているのが「自治会」です。

実際に、清掃活動、防犯・防災活動、広報紙等の配布、お祭りなどの活動を行い、暮らすうえで基礎となる地域の範囲です。

小学校区

複数の自治会が集まってつくる「連合自治会」や、PTA、子どもを守るネットワークなどは概ねこの範囲です。また、地域福祉の推進を行うために結成された、「長崎市社会福祉協議会支部」（以下「社協支部」）や、地域の高齢者の見守りなどを行う「地区民生委員児童委員協議会」（以下「地区民児協」）も概ねこの範囲です。

様々な地域組織があるこの地域では、となり近所や自治会での取り組みを広域的に連携させていったり、単一自治会では解決できないことに取り組んだりすることなどが期待されています。

長崎市全体

エリアを限定せずに活動しているボランティアやNPO、地域単位の各種団体を総括する全体会などがある範囲です。行政としては、全市域を対象とした公的な相談機能や支援機能を担っており、全市域を対象とした総合的な施策の企画・調整を行っています。

◆支え合う力を強くするための取り組み

地域では自治会や民生委員・児童委員、老人会、青少年育成協議会、NPO、ボランティア、事業所など、様々な団体が積極的に地域福祉の活動に取り組んでいます。各団体同士が連携・協力し地域全体のつながりが強まることで、支え合いの力も強くなり、地域福祉を推進する上での基盤となります。

地域福祉を推進するために、第2期計画においては、次のような取り組みを実施し、市内全地域に支え合いの力が強くなる地域のしくみづくりが広がるように、地域、市社協、市などが協働して取り組みます。

①地域内の連携を強くする場の創出

第1期計画期間に、地域（概ね小学校区）の各種団体等が集まって、地域の困りごとなどについての意見出しや課題の共有、その解決方法について知恵を出し合う、話し合いの場として座談会を開催してきました。

話し合いの場を設けることで、地域住民や団体との連携・協力体制が図られたとの声もあり、地域内の連携を強くすることにつながるものと考えています。

第2期計画では、引き続き未開催地区での開催を進めるとともに、すでに開催した地区においても、もっと地域内の連携を強くするために話し合いの場^{*}を開催していきます。

話し合いで出された意見は、地域課題の解決に向けた取り組みを確実に実践していくため、「わがまちのプランづくり」につなげることが大切です。

年次計画	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
話し合いの場の開催 (未開催地区での開催地区数)	10地区	10地区	5地区	—	—

特に、座談会の未開催地区 25 地区での開催を進め、未開催地区の早期の解消をめざします。

※ 話し合いの場として、座談会（福祉総務課・市社協）や わがまちみらい工房（地域コミュニティ推進室）を開催しています。どちらも地域の各種団体が、地域の困りごとや課題を共有し、その解決方法について知恵を出し合い、実行するための場です。

座談会に参加いただいた方々へのアンケート結果では、9割近くのかたから「このような集まりは今後も必要」といった意見をいただきました。

また、「出来る事からみんなで協力し合ってまちづくりに励みたい」「今後も何らかの形でまちを見直す機会を作りたい」等、座談会後の取り組みが大切といったご意見も多数ありました。

②地域で実践につなげる「わがまちのプランづくり」

第1期計画期間に、市社協では座談会を開催した地区を中心に、地域の自主性、独自性を大切にし、その地域の課題解決に向け、地域住民による取り組みを示した地域活動の地区別計画（「やってみゅ〜か・わがまちプラン（小地域計画）」）策定の支援をしてきました。

プランを策定した地区においては、自分たちの地区の取り組みや目標が明確になり、地域内の各団体の情報共有ができたり、一緒に同じ目標に向かって取り組んだりすることで連携や協力体制が生まれたという効果も出てきました。

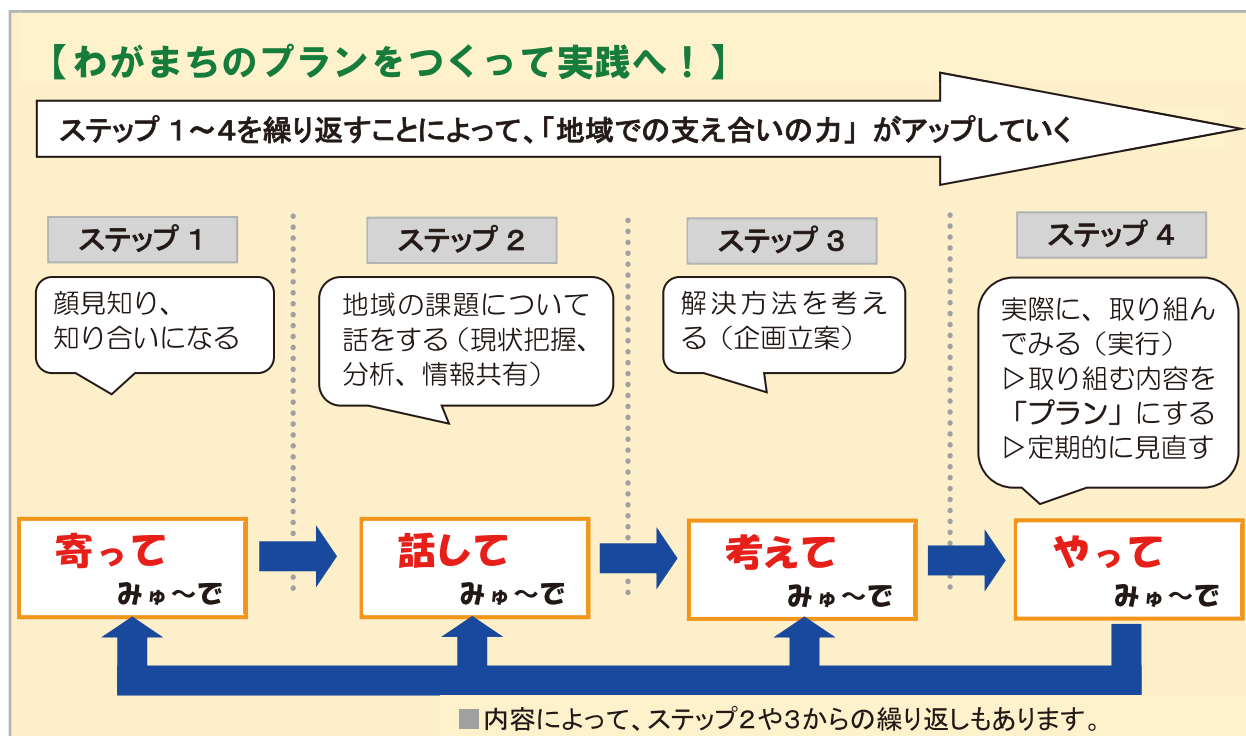
そこで、第2期計画においても引き続き「プランづくり」を地域住民の参画により、市、市社協が協働し進めていきます。

プラン策定後は、実際に取り組んでみる、また、定期的にプランを見直すことが大切です。

年次計画	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
わがまちのプランの策定 （新規策定地区数）	13地区	13地区	13地区	13地区	8地区
わがまちのプランの見直し （計画見直し地区数）	3地区	7地区	3地区	1地区	13地区

計画期間中に、未策定地区 60 地区*での策定をめざします。

既に策定した地区においては、策定から概ね5年で計画を見直します。



※ 策定する地区の範囲（広さ）は概ね小学校区としていますが、実際に策定する場合は、各地域の実情に合った範囲で策定します。

年次計画の地区数は、仮に全地区が小学校区で策定した場合に市内全部で74地区となり、未策定地区が60地区となります。

“わがまちのプラン”をつくろう！

①わがまちの「目標」を決めましょう

②目標に近づくために、何ができますか？

わがまちに合った具体的な取り組みをみんなで考えよう！



【わがまちプランの内容は】

- 1 地域の色々な団体と連携や協力をしながら活動や行事をしたいな。
⇒地域の各種団体が定期的に集まって情報を共有する場をつくってみよう！
⇒地域の各種団体の活動や行事を記載した「地域カレンダー」をつくってみよう！
 - 2 今も見守りや支え合いの活動をしているけど・・・
⇒従来の取り組みを拡大、充実させよう！自分の地域内にも広げよう！
 - 3 地域での見守りや支え合いの活動に新たに取り組んでみたいな。
座談会で出た課題、解決策の中から、ヒントがないかな。
⇒例えば・・・
 - 防災対策を中心に「ささえあいマップづくり」「避難訓練実施」「自主防災組織結成」など
 - 高齢者の支援を中心に「ふれあいサロンの設置」「認知症高齢者の見守り」など
 - 子どもの支援を中心に「子どもの居場所づくり」「登下校時間の見守り」など
 - ささえあいネットワークの組織をつくる など
- ◆地域で何に取り組むか悩んだら、33～65ページの「具体的に取り組むにあたって」に沿って考えてみてください。市や市社協の支援策も掲載しています。

(20～32ページに、実際に“わがまちプラン”をつくった地区の紹介をしています。)

**地域の皆さんが、できることから、できる範囲で
取り組むことが大切です！**

●●わがまちプランの紹介●●

第1期計画期間中に「やってみゅ〜か・わがまちプラン」(小地域計画)を策定した地区(13地区)を紹介します。

①深堀地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

〈誰もが住み慣れた地域で、安心していきいきと暮らせるまち!〉

◆地域のつながりを大切にするまち

- 気軽にいつでも話し合える場づくり
- 顔の見える近所づきあいと見守り
- 福祉の担い手の育成と発掘

◆子どもを元気に育むまち

- 地域での見守り活動の推進
- 地域で育む居場所づくり
- 学校と地域・保護者の連携

◆高齢者が生き生きと暮らすまち



その他にも
地域でこんな
活動をしています

その後の
地域の動き

誰もが安心していきいきと暮らせる
まちづくりが展開!

●防災マップ作り&避難訓練の実施

平成24年3月深堀地区公民館において、防災マップづくりを行い、翌年1月には作成した防災マップに基づく避難訓練を実施。平成27年11月の防災訓練では、16自治会から約430人の住民が参加し、各地区から自治会ごとにまとまって避難をします。車イスのかたも避難経路の確認をしながら訓練に参加します。最後は炊き出し訓練も行いました。

自治会ごとに避難訓練



炊き出し訓練



●ささえあいネットワーク

平成27年度に、発足から16年目を迎えました。これは、住民同士の支え合いの組織で、地区内で活動する各団体や機関が自分たちの得意分野を活かしながら高齢者や子どもの日常の見守りなど役割を担うものです。また、各自治会の班ごとに配置をお願いしている“福祉ボランティア”や子どもから大人まで参加を呼び掛けている“認知症サポーター”も日頃からの見守りに欠かせない存在となっています。

地域の絆づくり「ふれあい食事会」

深堀地区では、婦人会を中心に民生委員や連合自治会、地域の企業の協働のもと毎月第4金曜日に食事会を開催。地域での支え合い・見守り=絆づくりを目的に昭和60年頃に開始。テーブルには地元で咲く花を添え、メニューには季節の食材を取り入れるなど温かいおもてなしで高齢者を迎えます。地域の企業による血圧測定や出前講座も好評。高齢者も「毎回この食事会が楽しみ!」とキラキラの笑顔。見守る地域の方々も高齢者の生活状況や身体状況の把握・情報交換の場となっていました。

「日々、地域の様々な団体との連携を大切にしている」と連合自治会長。この言葉が深堀の絆づくりにつながっているんですね。



「地域全体で子どもや高齢者などを見守る雰囲気をつくり、誰でも地域行事や活動に参加しやすいように目配り気配りを欠かさず声をかけている」と社協深堀支部長。地域の一部が10段上がるより全体が1段上がることを目指して頑張っているそうです。

②西町地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

〈災害にも強いまち(西町)〉

◆防災意識・自助力の向上

- 防災意識調査の実施
- 講演会、講習会等の企画・実施
- イベントの企画・実施
- 防災知識の普及啓発

◆避難所運営のためのマニュアルをつくる

- 指定避難所の把握・確認
- ハザードマップの確認と避難図上訓練の実施
- 避難所運営上の課題の確認と整理
- 避難所運営マニュアルづくり

◆安否確認及び避難誘導の仕組みをつくる

- 自主防災組織設立に関する説明会(勉強会)の企画・実施
- モデル地区(自治会)の募集・選定



「住民の防災意識調査(アンケート)や防災講演会、子どもを対象にした防災イベントなどの実施を通じて、災害にも強いまちづくりに取り組んできました。地域の各団体との連携を大切にしながら地域全体に取り組みが広がるよう今後も継続していきたい」と社協西町支部長から意気込みを語っていただきました。

その他にも
地域でこんな
活動をしています

II
め
ぐ
す
地
域
福
祉
の
姿

その後の
地域の動き

“災害にも強いまちづくり”が展開!

●キッズ防災ボランティア養成塾 開催



平成 24 年 7 月



大人だけではなく、子ども達やその保護者の方々にも防災への意識を持っていただくため、楽しみながら防災を学ぶことを目的としたイベントを企画。空き缶や牛乳パックなど身近にある物を使って、自分でご飯を炊く体験をしました。

●ささえあいマップづくり

平成 27 年 10 月、地区内の錦町中河内団地自治会で作成。これがモデル地区となって地域全体に広がり、地域の中の見守りにつながることを期待しています。



西町まつり恒例 子どもみこし

平成 27 年 8 月、社協西町支部主催、西町校区連合自治会、西町地区民生委員児童委員協議会、緑が丘中学校区育成協西町支部の協賛のもと、西町まつりが開催されました。自治会や児童クラブが作成した子どもみこし 7 体が地区を練り歩き、まつりのスタートです。みこしは、軍艦島や平和祈念像、がんばくん等をモチーフとし、子どもたちのアイデアに溢れたものとなっていて、パレード後に行われた表彰式では 7 体すべてに賞が贈られました。メイン会場では、小学生による踊りや中学生のブラスバンド演奏、ラムネ早飲み大会などみんなが楽しめる催しが目白押し! まつりの最後は豪快に花火大会で締めくくられます。

西町まつりも今回で 32 回目。たくさんの地域のかたでにぎわい、今年もまた、地域の強い絆が結ばれました。



③立神地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

◆高齢者支援対策を重点的に進めよう

○独り暮らし高齢者のニーズを掌握するためのアンケート調査を行います！

→具体的な支援策を模索するために、地域の高齢者が見守りや買い物支援、日常生活支援など、何に困り、こういった支援が必要なのか、高齢者のニーズを掌握するためのアンケート調査を実施します。

このアンケート調査の結果を元に、この5年間で、地域で取り組む活動について、実行に移すための協議を引き続き行います。



その他にも地域でこんな活動をしています

その後の地域の動き

高齢者支援を中心としたまちづくりが展開

●“ささえあいアンケート”を実施

高齢者のニーズを把握するために「ささえあいアンケート」を平成24年12月に実施。

電球の取り替えや家具の移動など日常生活のちょっとしたことを手伝ってほしい、お手伝いできるというかたがおられることがわかりました。今後は地域のニーズに応じた支援をしていきます。

●廃校跡地を有効活用！

廃校跡地の有効活用ができないか、高齢者の集う場がほしい、といった意見を踏まえ、平成22年8月から高齢者ふれあいサロンを開設。

毎週1回実施していますが、継続して取り組んできたことが認められ、平成27年2月には、介護予防推進功労知事表彰を受賞しました！



サロンサポーターも頑張ってボランティアポイント※をためてます！

「廃校跡地を地域のみんなで改装して高齢者サロンを開設できたことが地域の誇り。週1回の実施は大変なこともあるが、サポーターのみなさんと協力しながら今後も継続していきたい」と社協立神支部長は語ってくれました。

毎年恒例“立神地区餅つき大会”

毎年12月には、立神地区連合自治会は社協立神支部と共催で約20年前から餅つき大会を開催。会場の立神公園には、小さい子どもから最高齢88歳までの約80人が集合時間より早い時間から集まり、手際よく餅つきの準備を始めます。餅をつく男性とそれを丸める女性、子どもたちも手伝ってテキパキとした流れ作業で餅が出来上がっていきます。「もう年だから」と笑いながら話すも、餅をつく力はまだまだ現役です。「昔はよく各家でこうやって餅をついていたが、今はここだけ。これが年末の楽しみです」と地域のかたは話してくれました。また、元大工のかたは、毎年杵のメンテナンスを行い、餅つき大会の成功を支えています。このような縁の下で支えるかたや若い世代の力により、毎年の餅つき大会は、地域に根付いた大切な交流の場となっています。



※ボランティアポイント制度

長崎市在住の65歳以上のかたを対象に、積極的に地域に貢献することを奨励・支援するもので、「高齢者ふれあいサロンサポーター養成講座」等を受講し、高齢者サロンや介護施設等でボランティア活動を行うと、1時間につき1ポイント(1日2ポイントが限度)を受けることができます。貯まったポイントに応じて年間最大5,500円分の「はあと屋」の買い物券や5,000円の交付金を受けることができます。

④ 西城山地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

〈災害にも強いまち(西城山)〉

◆自助の力を高める

- 防災アンケートの実施
- 学びの場(機会)づくり
- イベントの企画・実施
- 防災知識の普及啓発

◆共助(助け合い)の力を高める

- 自主防災組織の設立に関する勉強会の企画・実施
- 市民防災リーダーの増強
- モデル自治会の募集・選定



「プランを策定したことで、地区内の自治会や育成協など団体同士の話し合いが活発になったことが成果」と語る社協西城山支部長。つながりが深まったことで、行事や活動に、子どもや若いお母さんたちの参加も増えているそうです。

“災害にも強いまちづくり”が展開!

その他にも
地域でこんな
活動をしています

その後の 地域の動き

● 自主防災組織の設立に向けた勉強会の実施

平成 26 年 1 月、長崎市防災危機管理室より講師を招き、校区内の自治会合同で自主防災組織の設立に向けた勉強会を実施。勉強会に引き続き、別日には防災マップづくりの講習会も実施され、参加者一同で防災意識を深めました。また、自主防災組織を活用してい

くためにはどうしていけばいいか、勉強会を継続しています。



● ささえあいマップづくり

平成 27 年 8 月、地区内の青山自治会においてささえあいマップを作成。当日は 40 名あまりの住民が集まり、地域の中の自力で避難が難しい高齢者など支援が必要な人とその人を支援する人について意見を出し合いました。



防災マップづくり



ささえあいマップづくり

楽しく三世代交流!

ふれあいレクリエーション大会

西城山地区で開催される「ふれあいレクリエーション大会」は、平成 21 年からスタートし今回で 7 回目。幅広い年齢のかたと交流ができるよう、くじで決めたチームに分かれ、輪投げなど誰もが気楽に楽しむことができる競技になっています。子どもから高齢者まで幅広い層が参加しており、参加者は 70 名を超え、たくさんの方が交流することで親睦を深めました。始まりは高齢者を対象にした行事でしたが、社協西城山支部に根付いている、「子どもは地域で育て、見守る」という考え方の下、小学生や幼稚園児も交えるようになりました。

レクリエーションの企画・運営は、社協西城山支部のほか、連合自治会、民生委員、老人クラブ、育成協議会など複数の団体が協力して実施しています。子どもから高齢者まで遊びながら楽しく交流することが高齢の方々の生きがいになっているほか、レクリエーションを通して顔見知りになることで、地域での子どもたちの見守りにつながっているとのことです。



チーム分けの様子

⑤小江原地区

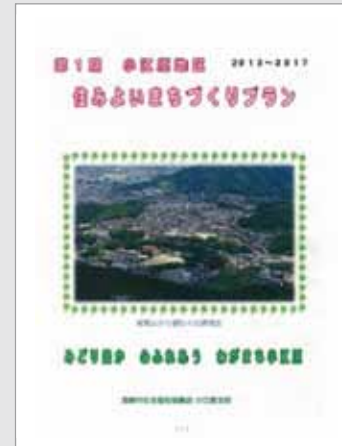
みんなで取り組む“わがまちプラン”

〈心ふれあう 住みよいまち小江原〉

◆小江原地区住みよいまちづくり情報交換会

他にも 5年間でこのような取り組みができればいいな！

- ふれあい朝市の拡大
- 老人クラブ合同日帰り研修旅行の実現
- ばるっ子フェスティバルの拡大
- ふれあい健康づくりの推進（グラウンドゴルフ大会他）
- 見守り安心活動の強化
- 住民のちょっとした困りごとをサポートする仕組みづくり



その後の
地域の動き

“心ふれあう住みよいまちづくり”が展開！

その他にも
地域でこんな
活動をしています

●小江原地区住みよいまちづくり 情報交換会がスタート！



【主な参加団体】

自治会、民生委員・児童委員、主任児童委員、老人クラブ、小・中学校、育友会、育成協、放課後児童クラブ、地域包括支援センター、少年補導員、交通安全協会、消防団、幼稚園、保育園、警察等（順不同）

各団体の行事や活動報告の他、地区内で起きている問題等の共有、その解決に向けた話し合いを3ヶ月に1回の頻度で開催中。

「学校と地域の行事が重ならないよう話し合いながら計画を立てています。まちづくり情報交換会から生まれた地域の各団体とのつながりを大事に様々な活動を継続していきたい」と社協小江原支部長は語ってくださいました。

地域の絆深まる！「こえばる朝市」

小江原地区で毎月第3土曜日に開かれる「こえばる朝市」は、有機肥料を使用した「ぼかしづくり」がきっかけで平成23年にスタート。ぼかしを使って自家栽培で育てた野菜などを安く販売しています。また、子ども会と自治会で「ピコバル農園」を運営し、農園で収穫した野菜は子どもたちの手によって朝市で売られています。さらに包丁や鎌を研ぐコーナーがあり、年間300本も研がれているそうです。朝市の後には、「こえばるふれあいサロン」でおしゃべりなどを楽しめます。

朝市の開催に併せてたくさんのふれあいの場をつくることで、毎回子どもからお年寄りまでみんなが楽しく参加しています。知り合いが増えるきっかけにもなり地域のつながりの輪がさらに広がります。



⑥日見地区

みんなで取り組む「わがまちプラン」

◆日見地区みんなでつながりタイ（隊）

地区内で活動をしている様々な団体※同士のつながりを強めるために「日見地区みんなでつながりタイ（以下「つながりタイ」）」（情報交換会）を結成！つながりタイの開催を継続していく。（3ヶ月に1回開催）

※参加団体は、社協日見支部、連合自治会、民生委員・児童委員、育成協、交通安全協会、保育園、幼稚園、小・中学校、総合科学大学、放課後児童クラブ、PTA、老人クラブ、消防団、ペンギン水族館、郵便局、行政支所、老人福祉施設、地域包括支援センターなど（順不同）

◆年間活動予定表の作成

日見地区内で各団体が行っている行事やイベントを目的ごとにまとめた“年間活動予定表”を年1回作成し、各世帯に配布。

年間活動予定表→



その他にも
地域でこんな
活動をしています

その後の
地域の動き

“みんなでつながりタイ”を
中心としたまちづくりが展開！

●地域の団体同士のつながりが強まる！

「つながりタイ」は平成 27 年で3年目を迎え、その間いろいろな“つながり”が生まれました。



例えば・・・

※平成 24 年 11 月、中学校の「正月に校門に飾る門松を学校で作りたい」という思いから、地域のかたが指導者となり、生徒と一緒に実施。

※平成 27 年 8 月には、長崎総合科学大学が「学園祭で好評だった竹灯籠で地域を盛り上げられないか」と「つながりタイ」に提案したことがきっかけで、大学や地域の団体が一緒に竹灯籠を製作。つながりタイのメンバーでもあるペンギン水族館で開催される「サマーナイト水族館」の一つとして披露することとなり、約 500 個の灯籠が設置されました。



ほんの一例ですが、一つの団体だけでは解決が難しいことでも、他の団体や地域とつながりを持つことで活動がより充実したものとなりました！

「地域のかたの関心が高まることを期待し結成した“つながりタイ”によって、団体同士の結び付きが強くなり、地域の輪が広がりを見せていることは大きな成果」と語る社協日見支部長。今後ますます地域の“つながり”が強まるよう活動を継続していきたいと意気込みを見せていました。

初の試み 「日見地区防災訓練」

日見地区で初めての連合自治会主催の防災訓練が平成 27 年度に行われました。訓練は二部構成となっており、第一部は自主避難の防災無線に合わせて自宅から各避難所への避難、第二部は各避難所から小学校グラウンドに集合し消火体験や応急処置体験などを実施。開催にあたっては、消防団、PTA、市消防局など様々な団体と協力して事前の広報に力を入れ、当日は約 520 人も参加がありました。日見地区は長崎大水害の被害が大きかった地域でもあり、その教訓を生かす意味でも今回の訓練は大変意義のある活動となりました。日見地区は「みんなでつながりタイ」の取り組みなど地域ぐるみの活動の意識が非常に高い地区ですが、この訓練がさらに地域のまとまりを強くする活動につながります。



⑦ 福田地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

◆ 声かけあいさつ運動を推進します

- 住民一人ひとりの顔が見える関係をつくるために、声かけ挨拶運動を推進します。
- 啓発のための標語・ポスターの製作を小中学校と協力して行います。

◆ 高齢者ふれあいサロンを推進します

- 気軽に集い、地域の仲間との交流の場としての高齢者ふれあいサロンの開設を推進します。

◆ 異世代間交流活動を推進します

- 地域の子どもから大人まで、互いの顔を知り交流できる機会を作ることを目的として、異世代間交流活動を推進します。

◆ 長崎がんばらんば国体を応援します

- 2014 年に開催予定の“長崎がんばらんば国体”では、福田小学校区にあるサンセットマリーナがセーリング競技の会場となっています。県内外から訪れる選手の皆さんやボランティアの皆さんを温かくお迎えし地域一丸となって“長崎がんばらんば国体”を応援します。



その他にも
地域でこんな
活動をしています

その後の 地域の動き

交流・つながいを深める
まちづくりが展開！

● 地域の“交流の場”を大切にしています！

- 福田地区では地域の交流の場として、
- ◇ 一人暮らし高齢者への食事サービス
- ◇ 高齢者ふれあいサロン（週 1 回）
- ◇ 子育てサロン
- ◇ 夏祭り

を開催しています。
地域住民がお互いの顔を知る機会を大切に、継続

した取り組みが、地域のつながりを強くしています。



高齢者ふれあいサロン



子育てサロン



サンセットマリーナで夏祭り♪

「無理のない範囲でできることを頑張っています！今後も地域のみなさんと協力しながら活動を継続し、顔の見える関係をつくっていきたい」と社協福田支部長は語ってくださいました。

地域の交流深まる“ふれあい食事会”

社協福田支部では 1985 年 5 月から、市社会福祉協議会の呼びかけがきっかけとなり毎月 1 回「ふれあい食事会」を実施。ボランティアの方々が前日から食事の買出しや当日の準備等を行っており、栄養のバランスを考えて料理を作っています。おいしい食事を食べ終わった後は、講師のかたの講話や福田保育所の園児達との交流等、毎月様々な活動を行っており、参加することで認知症の予防などにもなります。食事会が約 30 年近く継続できているのは、支部を中心としてボランティアなど地域のみなさんの協力があるからこそ。この食事会を通して、一人暮らしの高齢者が近隣住民のみなさんと交流を深めることにより、地域の中で安心して暮らせる環境が作られています。



⑧ 西北地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

◆高齢者への見守り活動を推進します

○西北地区においても、徘徊する認知症高齢者の問題など、見守りが必要な高齢者への支援が課題となっています。地域の実情に沿った形での見守り活動を推進します。

◆災害に強いまちを目指します

○地域の危険箇所や避難場所を再確認することを目的に、危険箇所マップの作成を推進します。
○災害時における、避難誘導の方法について考えていきます。

◆地域の様々な団体が、話し合ったり情報交換ができる地域を目指します

○西北地区が、今以上に住み良い地域になっていくためには、地域の団体同士が意見交換や情報の共有を定期的に行う事で、現在の活動がさらに充実したものになり、新たな取り組みにつながっていくと考えます。



その他にも
地域でこんな
活動をしています

その後の
地域の動き

災害にも強いまち、
つながりあうまちづくりが展開！

●地域ネットワーク会議を開催中！

西北小学校区連合自治会では、平成 25 年 6 月から地域包括支援センターや市、市社協と連携しながら、西北小学校区ネットワーク会議をスタート！防災に関する講話や“災害図上訓練”を行った後、平成 27 年 2 月、防災マップ

を作成しました。今後は、“顔の見える関係づくり”につなげるため、地域の様々な団体に参加してもらい、意見交換や情報共有をする場として活用するなど、地域の輪が広がっていくことが期待されます。



防災マップの作成



ネットワーク会議

●防災協議会を立ち上げました！

平成 27 年 12 月には防災協議会設立総会を開催し、「災害に強いまちづくり」に向けて地域が一つになって動き出していました。



防災協議会設立総会

地域の宝！子どもたちの郷土愛をはぐくむために

毎年 1 2 月に行われる、岩屋中校区育成協議会主催の「地域交流イベント」。平成 27 年度はふれあい餅つき・交通安全フェスタ・防犯講話の 3 つのイベントが開催されました。恒例の餅つきでは、小・中学生に民生委員から餅の丸め方を、おやじの会からは杵のつき方を指導してもらい、世代間交流を深めます。交通安全フェスタでは、警察や JAF の方々を招き、衝突実験車などを体験し、日常に潜む危険について、大人と子どもが共に楽しみながら学ぶ姿がみられました。イベント全体の中で、中学生が、小学生や地域の方の誘導案内を行うなどリーダーシップを発揮してくれます。このような地域の交流を通して、地域の宝である子どもたちに愛郷心をもってもらいたい、岩屋中学校区の温かい交流の場となれば、という願いがこめられているそうです。



「西北地区での取り組みは始まったばかり。現在取り組み中の地域ネットワーク会議などの話し合いの場を活用しながら、積極的に“顔の見える関係づくり”につなげていきたい」と語る社協西北支部長でした。

⑨高尾地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

◆アクション1 団体・関係者同士のつながり強化

- 高尾小学校区楽しいまちづくり情報交換会の開催
 - * 関係者同士のつながりの強化
 - * イベントの告知や活動の状況、地区で起きている問題等の情報共有
 - * 楽しいまちづくりのための基盤となるネットワークづくり

◆アクション2 ふれあいの場づくり

- “包丁研ぎ会”の開催
 - * 包丁研ぎをきっかけに、幅広い住民が定期的にふれあえる場（機会）づくり

◆アクション3 高齢者の居場所づくり

- 高齢者ふれあいサロン活動の推進
 - * 仲間づくりや介護予防
 - * 居場所づくり



横のつながりを強め、楽しいまちづくりが展開！

その他にも
地域でこんな
活動をしています

その後の 地域の動き

●高尾小学校区“楽しいまちづくり 情報交換会”がスタート！



平成 25 年 6 月、地域包括支援センターが行う地域ケア会議をきっかけにスタートした地域の話し合いの場も、高齢者に関するテーマ以外にも話をしていきたいと、社協支部主催の“情報交換会”として定着。平成 27 年度からは、各団体の行事や活動報告の他、テーマに

応じた意見交換会をする等 3 ヶ月に 1 回の頻度で開催中。

【主な参加団体】
自治会、民生委員・児童委員、主任児童委員、老人クラブ、小・中学校、育成会、育成協、放課後児童クラブ、地域包括支援センター、少年補導員、交通安全指導員、病院、保育園、児童養護施設、警察等（順不同）

「毎回各団体から約 30 名の方が参加し継続できていることが高尾地区の強み！今後も地域のことはみんなで話し合いながら取り組んでいきたい」と語る社協高尾支部長でした。

地域の笑顔はここで守ります！

高尾地区では、一人暮らしの高齢者に向けて、山里地区ふれあいセンターで食事会を開催しています。始まりは 10 年程前でしたが、徐々に規模が大きくなり、今では年に 10 回、最大 115 名程が参加する一大イベントとなりました。食事会で出される料理は、全てボランティアのかたの手作り。前日から準備を行い、メニューにも工夫が満載です。食事のあとは、学習グループによる歌やフラダンスの余興が行われます。「ここに来るとみんなに会える。」食事会は高齢者だけでなく、地域のかたの交流の場にもなっています。ボランティアの高齢化が問題となるなか、地域の笑顔と元気を守るために、素敵な取り組みがなされていることを、もっと多くの方に広めていきたいものです。



⑩ 為石地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

〈災害にも強いまち〉

◆災害に強いまちにするための今後の取り組み

- 自主防災組織を作ろう
- 一人暮らし高齢者などの災害時要援護者を見守ろう
- 避難訓練をしよう



その後の地域の動き

●防災連絡協議会を立ち上げました！

為石地区では、様々な地域の課題について協議した結果、地域一体となって災害に備え、安全安心な為石地区にしていくことを目標に掲げました。



防災まちあるき

まずは「防災」をテーマに取り組むため、地区内の7自治会、民生委員や消防団による防災連絡協議会を立ち上げました。

各自治会で防災マップの作成に取り組んだほか、自主防災組織が全自治会で結成され、防災を中心とした活発な活動が行われています。



防災マップの作成

「縦割りの発想をやめ、オール為石で考え活動することが大切！ただし、無理しない、肩肘張らない、背伸びしない、身の丈に合った活動を継続していきたい」と社協為石支部長は語ってくださいました。

災害にも強いまちづくりが展開！

その他にも地域でこんな活動をしています

住民の絆深まる“為石校区運動会”

市町村合併により一時的に開催されなくなった運動会。「地域のつながりを強める」ため、地元の若者たちにより平成20年頃に復活！為石地区の6つの自治会対抗による競技種目は、小さな子どもからお年寄りまで全ての年代のかたが楽しめるよう工夫されています。運営は地域の若手に任せ、自治会や社協支部は資金面で協力するなど、地域内での連携も図られています。

また平成27年度は初の試みで、市防災危機管理室と協働し、子ども向け防災クイズコーナーや、担架を利用した人命救助リレーの競技を取り入れるなど、楽しみながら防災への意識を高める内容となりました。

この運動会を通して為石地区の住民同士のつながりが強くなり、防災や見守り活動につながっていますね。



11 銭座地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

〈災害にも強いまち(銭座校区)〉

◆自助の力を高めよう！

- 防災アンケートの実施
- 学びの場（機会）づくり
- 防災知識の普及啓発

◆共助（助け合い）の力を高めよう！

- 自主防災組織の結成に関する勉強会の企画・実施
- 市民防災リーダーの増強
- 避難所の確保・整備



その後の地域の動き

●防災アンケートを実施

プラン初年度の取り組みとして、平成26年7月「防災アンケート」を実施。「いざというときに助けを頼める人がいない」13%、「自助・共助への取り組みを始めたい、始めてほしい」約38%（いずれも回答数614世帯）という結果がでました。これらの声を生かすために、地域一丸となって活動に取り組んでいます。

●自治会単位での防災マップづくりを実施

自治会ごとに防災マップを作成し、危険箇所や避難所などを確認。全自治会で取り組むことができました。なお、防災マップづくりを終えた自治会では、ささえあいマップづくりがスタートしています。その他、防災講演会や児童とその保護者を対象とした防災イベントなども実施されています。



「地域の中で、日頃からの支え合いが大事と思っています。防災を切り口として支え合いの輪を広げていきたい。今後、防災協議会を立ち上げて地域全体で考え、積極的に取り組み、継続した活動へとつなげたい」と熱く語る社協銭座校区支部長でした。

“災害にも強いまちづくり”が展開！

その他にも地域でこんな活動をしています

元気いっぱい！ 笑顔いっぱい！「楽笑サロン」！

社協銭座校区支部は、高齢者の方々が地域の人たちとの交流を通し心身ともに健康に生活できるよう、平成27年2月に「高齢者ふれあいサロン『銭座楽笑サロン』」を開設。毎週1回開催しているサロンでは、健康相談や笑いヨガ、誕生日会など様々な活動を行っており、坂や階段の多い地域に住み、出歩くことが少ない高齢者にとって、運動やお喋りなど、家に一人ではできないことができる貴重な場となっています。時には小学生との交流もあり、元気をもらえるとの声も多いようです。銭座小学校区では、「自分たちで決めて、考え、実行する」ことをモットーに、自治会、社協支部、民児協、連合子どもを守る会、事業所など地域の様々な団体が力を合わせ、高齢者支援や子育て支援、防災への取り組みなど地域の強いつながりを生かしながら活動しています。



⑫ 仁田南部地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

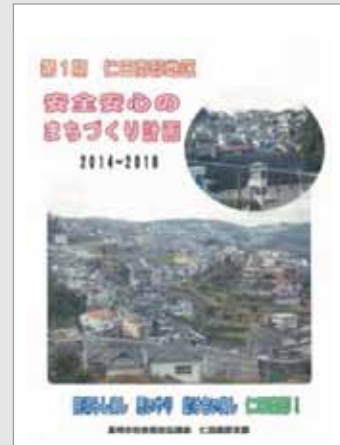
〈誰もが安心していきいきと暮らせるまち(仁田南部)〉

◆みんなで安全・安心のまちづくり

- 防災意識の向上
- 防火防災意識高揚研修会（防火防災のひろば）の開催
- 交通事故防止の運動

◆みんなで参加！元気で楽しいきれいなまちづくり

- 高齢者サロンの推進
- 子育てしやすいまちづくり
- ふれあい健康まつりの開催
- ごみのないまちづくり
- 花いっぱいのもちづくり
- 史跡の掘り起こし



その他にも
地域でこんな
活動をしています

誰もが安心していきいきと暮らせる
まちづくりが展開！

その後の
地域の動き

●花いっぱいのまちづくり

「花いっぱいのうるおいのあるまちづくり」を目指した取り組みとして、平成 26 年 6 月、10 月、11 月と 3 回にかけて、連合自治会や中学校 PTA などと連携して、大浦中学校運動場登り口付近の「シバ桜」「アサガオ」などの植え付け作業を行いました。

平成 26 年 8 月には、長崎県より「おもてなし協力隊」として表彰されました！



●認知症サポーター養成講座に参加

認知症について学び、地域で支える活動に取り組みたいと、地区内 7 町の各自治会から参加があり、全体で 62 名が講座を修了しました。

「座談会を開催したことで、自分たちのまちのことを考えるきっかけに。地域内の団体の連携が強まり、イベント等で連携や協力がしやすくなったことが成果」と語る社協仁田南部支部長。今後もプランを基に“安全安心のまちづくり”を地域全体でつっていききたいとのことでした。

七色に輝くまちづくり！

～ふれあい健康まつり～

仁田地区南部連合自治会では、“住民同士の親睦を図り、安全安心なまちづくり”、“住民の健康を守る”という思いから、「ふれあい健康まつり」を開催。皆が楽しめるゲームを通して交流を深め、地域の病院や事業所などの協力による血圧や骨密度測定などの健康チェックは、参加者の健康意識の向上にも一役買っています。平成 27 年には、子ども会によるキッズコーナーを設け、子どもたちがもっと気軽に参加し楽しめるような工夫も。地域の子どもたちが少なくなり単一の子ども会では活動が難しくなったため、7 自治会の子ども会を統合して結成した「レインボークラブ」。名前には「7 町 7 色、子どもたちと地域、そして地域同士のかけ橋に」という思いも。

これから地域一丸となって高齢者だけでなく子どもたちも含めて見守り活動に取り組んでいくそうです。



13 高城台地区

みんなで取り組む“わがまちプラン”

◆高城台地区情報交換会

地区内で活動をしている様々な団体が、定期的に集まって情報交換などを行い、地区内の行事やイベントでの協力・連携を図る。
(平成27年度は年3回、平成28年度以降は年4回開催)

◆高城台地区のコミュニケーションの活性化

地区内のイベントや行事に、住民の方が参加しやすいように、地区内の主な行事を年間ですとまとめた「高城台地区関係団体の年間活動予定一覧」を作成し、広報、周知をして、住民同士のコミュニケーションを図る。

年間活動予定一覧→



その他にも
地域でこんな
活動をしています

その後の 地域の動き

●地域の団体が集まる “情報交換会” がスタート！

高城台地区での取り組みは始まったばかり。地域の団体同士の協力・連携を強めるために4ヶ月に1回の頻度で開催。

●フットベース ボール大会の開催

高城台小学校区では校区単位のイベントがない、親睦を強めたい、という思いから、平成27年10月、連合自治会主催で初めて地域全体での取り組みとなる「フットベースボール大会」を開催！新たなつながりのスタートとなりました。



「まずは何でもやってみる！そして、反省会をしながらさらにつながりを深めていきたい」と語る社協高城台支部長。今後も校区での取り組みとして継続していきたいとのこと。

いじめをなくそう！～地域での見守りの輪～

矢上地区青少年健全育成協議会では、毎年、15地区に分かれて子どもに関するテーマについて話し合う地区懇談会が開催されています。その一つである高城台地区では、今回、保護者・小学校教師を含め60名程度のかたが出席し、最近のいじめについて話し合いを行いました。出席していた高城台小学校の先生からは、最近のいじめは、ラインを使ったものが増えているとお話があり、その対応について考える良い機会になりました。また、昔に自分が体験したいじめや、そのときにかけて嬉しかった言葉などの意見を出し合いグループで共有し、発表を行いました。いじめられた子どもの気持ちや今どきのいじめの現状を地域の中で共有することで、子どもの態度の小さな変化を見逃さず、早期に有効な対応をとることができるなど、地域で子どもを見守る輪が広がります。

